# ～　シャルル５世の市壁　～

2021 年 3 月 1 日
37 回生　竹本　修文

**はじめに**

①　前回の「**フランス城郭シリーズ３**」ではパリの**フィリップ・オーギュストの壁**建設までだったが、今回はその後の **13 世紀から 14 世紀でパリのシャルル５世の城壁まで**の時代である。首都を定めず各地に複数の王宮を置き、王は各地を巡行していたが、パリを首都とし、壁の内側には市民と王朝メンバーの住居、王国を統治する機構、軍事、宗教施設を整備し、壁は城壁と呼ぶにふさわしくなる。

②　その過程で登場するのは、前回主役の仏王フィリップⅡ世オーギュストの**更なるイングランドとの戦い**、仏王で唯一人聖人となった**ルイ９世**、そしてフィリップ４世を経て、ヴァロア朝に移りイギリスとの**百年戦争**がはじまり、**シャルル５世**がフィリップ・オーギュストの壁の外側にイングランド軍との戦いに備えて城壁を建設する時代を見てゆく。

## 1.　仏王フィリップⅡ世オーギュストの領土回復戦争

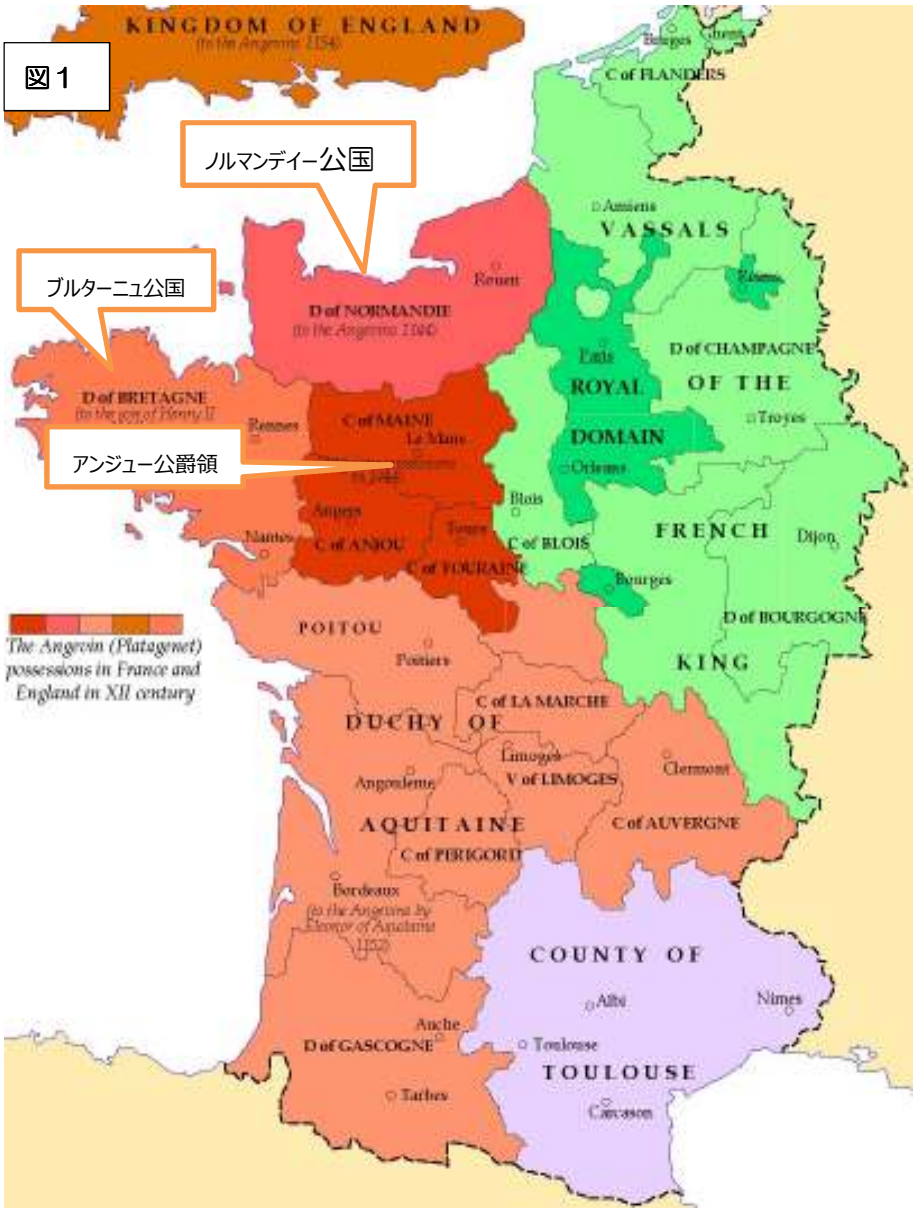
①　**図１**は、前回（シリーズ３）の図８をカラフルに見やすくした地図だが、文字がフランス語の地名で英語の説明である。

- 図１イングランド王国の土地に 1154 年にアンジュー帝国にわたる、と記載されている。フランスのアンジュー伯がイギリスの王になり、皆フランス語を話しており、イギリスはフランスに占領された。

- その他の赤い色は伯爵　**C** (Count)や公爵　**D**（Duke）で、濃い赤はフランス王に臣従を誓ったアンジュー伯の領土、薄い赤はアンジュー伯の封臣

- パリとオルレアンを含む**濃い緑**の小さな領土がフランス王家（カペー家）のものである。
フランス王国と言っても、現在のフランスの半分以下の面積。

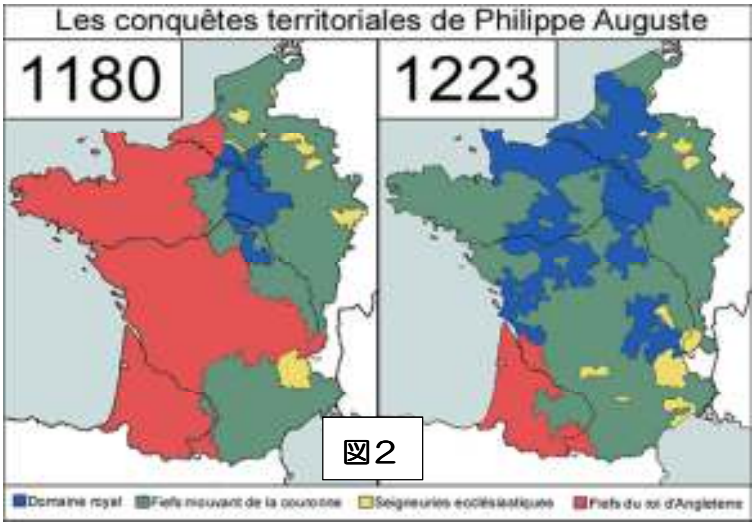
- その周辺の薄い緑は、VASSALS OF THE FRENCH KINGと書かれている。Vassalは**封臣**と訳されており、「中世ヨーロッパの封建制度において領主や君主との相互の主従関係のある地方領主」である。



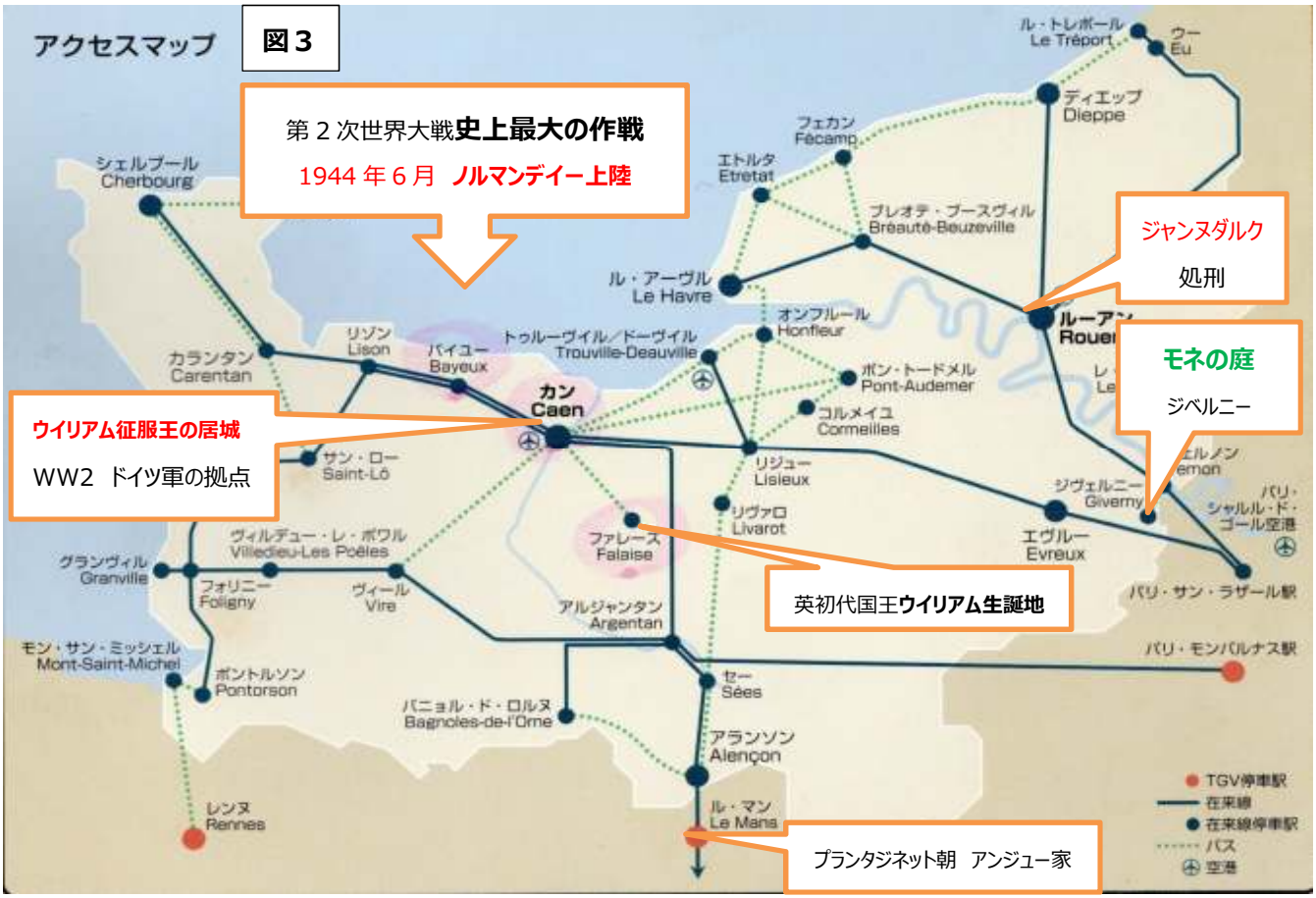
② **フィリップⅡオーギュストの領土政策**

➢フィリップⅡ世はアンジュー伯で、イングランド王のヘンリーⅡ世と息子リチャードの不仲を利用し、ノルマンディー公国、ブルターニュ公国、アンジュー公国を入手した。

➢フィリップⅡ世は,治世の晩年を飾る1214年の**ブーヴィーヌ**（Bouvines リールとトウルネの間）**の戦い**で、イングランド王と神聖ローマ帝国の連合軍に勝利し、フランス王が名実共にヨーロッパの覇者として名乗りをあげた。




② **ノルマンディー**




➢ **カロリング朝**時代の911年に、北方ヴァイキングの一派がフランク王から与えられた土地で、ノルマンディー公国になった。1066年に**ノルマンディー公ウイリアム**がイングランドを征服し、イングランド初代の国王になった。20年5月30日、「最後のイギリス旅行４　ノルマン様式城郭の始まり」に、詳しく解説した。

➢ **カン**のノルマンディー上陸後の激戦地に**Le Memorial**があり、第一次大戦からベルリンの壁崩壊までの展示がある。展示の中心は第二次大戦だが、原因・ドイツの言い分・生存者の体験談、広島・長崎への原爆投下まである。

➢ 大西洋に面して雨が多く、えさの草が育ちチーズはカマンベールから筆者お気に入りの**リヴァロ** Livarot など生産、リンゴの産地で**酒シードル**からブランデーの**カルヴァドス**など、素晴らしい。**田窪恭二**がリンゴの絵で改修した教会がある。

➢ **筆山第69号**に、高知の良さを再認識「**モネの庭**」の記事がある。モネが暮らした**ジベルニーGiverny** はノルマンディーにある。仕事で何回も訪問した会社の近くにあり、二度ばかり見学した。



制作：竹本　修文

③ **イングランド王ウイリアム征服王の居城　カン城**（Caen Castle）

イングランドでは、王の戴冠式も葬式もウエストミンスター**寺院**（Westminster Abbey ローマ教皇を頂点にしたカトリックの仕組みから離脱しているので、Cathedralやカテドラルとは言わない。）で行われるが、初代から７代の王はノルマンデイーやイギリスの他の寺院に埋葬されている。図４は、**カン**(Caen)の修道院と尖塔が見えるのがウイリアム征服王の墓所がある聖エテイエンヌ教会、但し遺体は新教徒ユグノーが捨てた。Caen Stone と呼ばれる石灰石で、イギリスのロンドン塔、ウエストミンスター寺院、カンタベリー大聖堂などに使用された。現在は、修道院は市庁舎。

図４

④ **カン城**　イギリス王室初期の王の拠点は、探してもイギリスには無く、ここノルマンデイーの**カン城**だった。

**ウイリアム１世**の死後、長男ロベールがノルマンデイー公になり、二男のリチャードが狩の途中で変死していたので、三男がイングランド王ウイリアム２世となった。ウイリアム２世が事故死した時長男ロベールが**第１次十字軍**に参加中だったので末っ子が**ヘンリー1 世**としてイングランド王になり、攻めてきたロベールを破ってノルマンデイーを併合した。城砦は 1060 年にウイリアム１世が王になる前に宮殿として建設し、1123 年にヘンリー1 世が要塞化、**1204 年**には**フィリップⅡオーギュストによってノルマンデイーがフランスに併合**され、13C,14Cと強化されたが、百年戦争の 1417 年にヘンリー5 世率いる英軍に侵略破壊された。1944 年にはドイツ軍が拠点として使っていたので、連合軍によって爆撃破壊された。

図５　英ノルマン朝の王宮・王城を訪ねて大満足

2.　**聖王ルイ９世**（b1214-a1226-d1270）　フランス国王でただ一人カトリックの聖人になった

父王ルイ８世の急逝により、12 歳でフランス王位に就いた。母が摂政として貴族層を巧みに操縦して国内の統治をおこなった。30 歳で大病を患ったが平癒すると直ちに**第７回十字軍**遠征を組織して、聖地及び東地中海地方を四年間統治した。帰国すると 40 歳で初めて親政を開始した。統治にあたっては常に決然として、いかなる王よりも権威的で、家臣にも高位聖職者にも容赦しなかった。1270 年、あらたな**第８回十字軍**を組織し南仏のカマルグ地帯の**エグモルト要塞**（図７）から出港し北アフリカのチュニスで死亡。ペストと伝えられていたが、遺骨の調査で赤痢と言われている。

遺体は熱湯で煮て肉を外し、骨だけを持ち帰った。サンドニ聖堂地下の王家の墓所で二度探したが発見できず。

ウイーンのハプスブルク家の墓所は、心臓と遺体が別々の教会に分かれており、遺体の方は見学できた。

図６

図６はパリ・シテ島のフィリップ・オーギュストが自分の王宮として作ったが、中央の**サント・シャペル**は、ルイ９世の王宮で唯一保存されている。ルイ９世は、ビザンツ帝国皇帝ボドワン２世からイエスが磔刑されるときに被っていた「**茨の冠**」や「**真の十字架**の破片」など数々の聖遺物を入れた聖遺物箱を保管していたが、革命で箱は破壊されて、現在聖遺物はノートルダム聖堂に保管されている。

図７

エーギュ・モルトはルイ９世が使っただけで、海岸線が遠くなり、城壁の中は低所得者層の住居になっている。

## 3. 百年戦争

### ① 概要

1337 年から 1453 年までの百年戦争は全てフランスの中で戦われた。116 年も休みなく戦ったわけではなく、世代を超え、休み休みやっていた。図 2 で示したように、フィリップⅡオーギュストの時代にボルドーを中心にしたガスコーニュ地方を残してフランス側の国土は回復されていた。**図 8** は、1328 年（戦争開始前）、1382 年（開始 45 年後）、1430 年（フランス大ピンチ）、1470 年（戦後）の領土の変遷を示している。

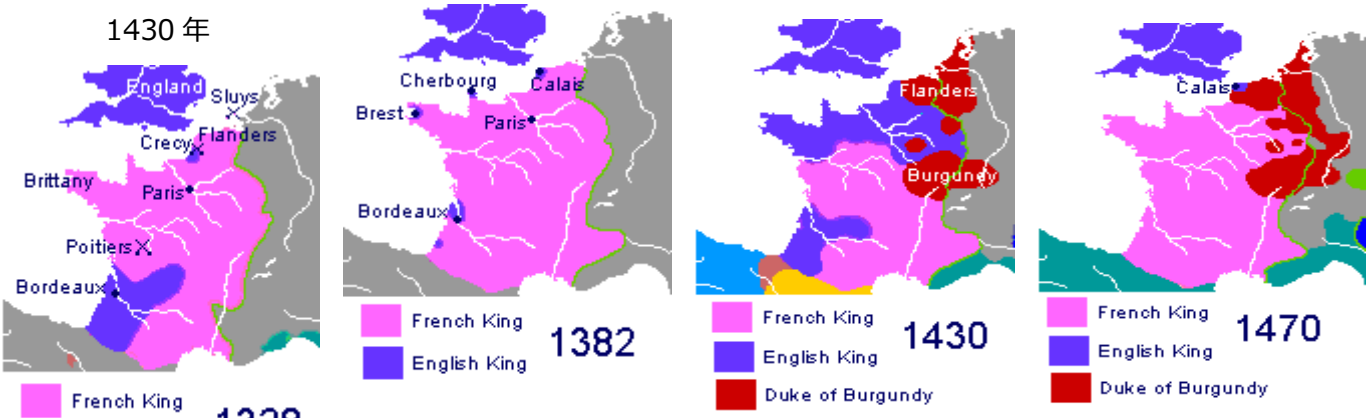
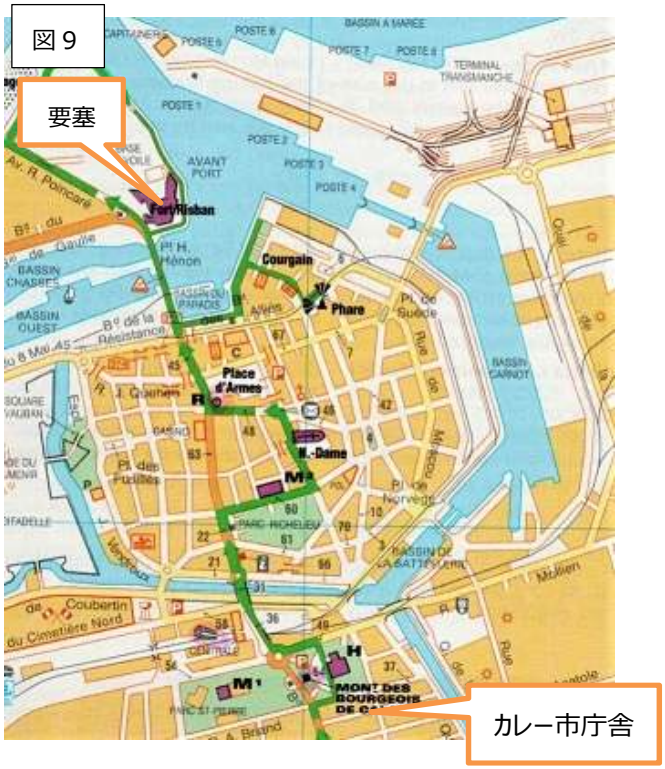



**図 8**　戦争開始 1337 年から終結 1453 年を含む領土の変遷を示す地図 4 枚

### ② イングランド側の拠点カレーCalais

- ドーヴァー海峡を越えてイギリス側の海岸を見ると、**ドーヴァーの白い崖**が見える。ローマのシーザー（カエサル）が BC55 年に記録している。シーザーは、正面からの上陸は危険と判断して、Deal から上陸した。飛行機かユーロトンネル経由の鉄道の時代で、船旅は機会が無くカレーから撮影のみ。　　図 9　ドーヴァーの白い崖

- 1346 年に英王**エドワード三世**はここを手に入れるのにのべ千隻近くに及ぶ艦艇と一年の年月を費やした。その甲斐あって、百年戦争中はイギリス軍の作戦基地として、戦中戦後を通してイギリスの羊毛貿易の基地として発展した。イギリス統治下、カレーには最大で千名にも及んだイギリス唯一の常備軍が配置されていた。**干満の差**が大きく、船を停泊させる水域は全てドックである。




- **カレーの市民**　The Burghers of Calais
  中央の城壁で囲われた島がカレーの町。クレシーの戦いに勝利したエドワード軍 1347 年に、カレーを包囲し兵糧攻めした。市民が全滅寸前になった時に、勇敢な市民の代表数人が城門の鍵を差し出し、「自分達の命と交換に市民を助けてくれ」と懇願した。500 年後にカレー市民はロダンに記念碑の制作を依頼した。ロダンは、死を前にした英雄達の怖れや苦悩をも表現し、1888 年に完成。



制作：竹本　修文

図 10

当時のカレーは現存する**市民居住区**と**城郭**に分かれていた

図 11

カレー市庁舎前の「**カレーの市民像**」と日本市民

③ **イングランド王ヘンリー五世** (b1387-a1413-d1422)がフランス王位継承権をはく奪

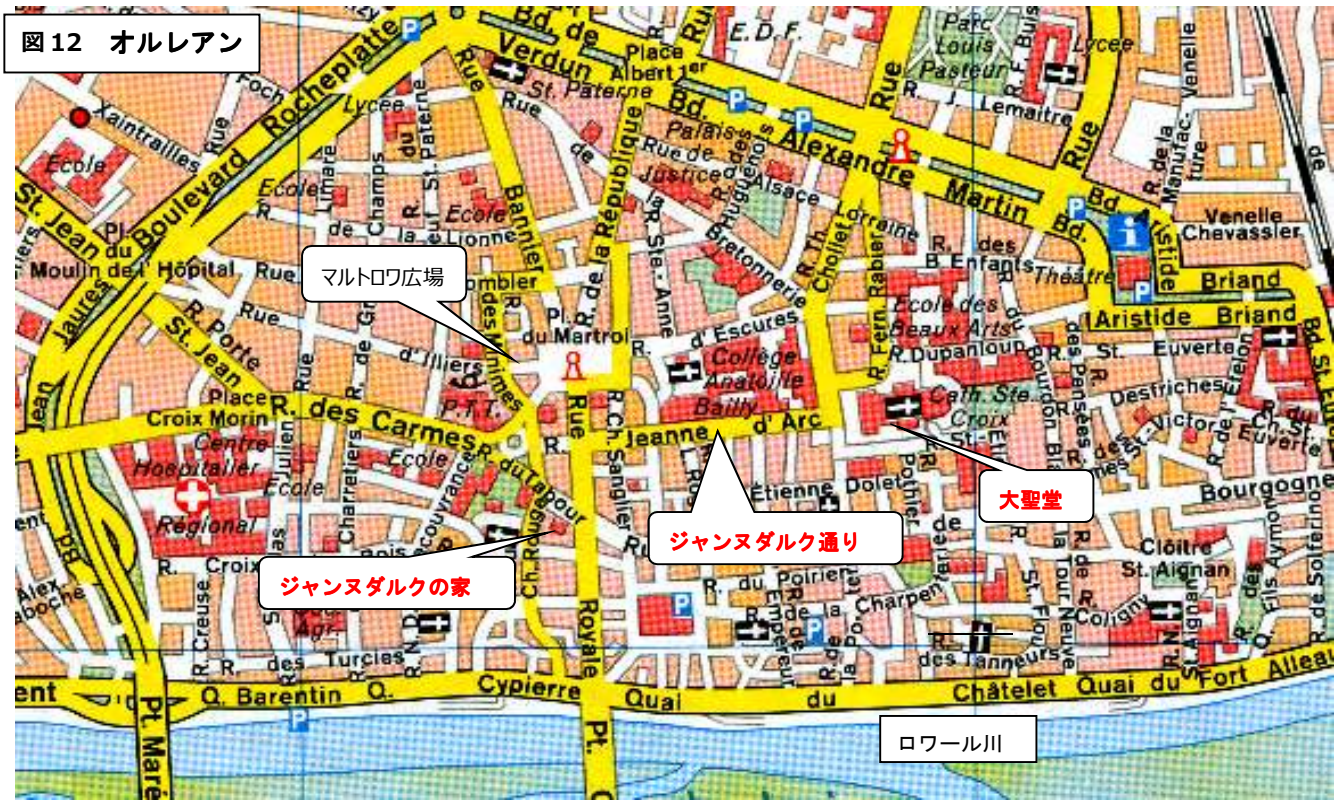
＜ 百年戦争中の、**シャルル５世のパリ**は、本稿の主題であり、第４項で説明する。 ＞ 「おいさがし」ですみません。

- ヘンリー五世は、フランス王シャルル 6 世（妻は東フランク南部のバイエルン王国出身）の娘カトリーヌを妻に迎え、やがて生まれてくる子供を二つの国の国王とすべく、シャルルの妻は**夫の名前でトロワ条約**を結んだ。
- ヘンリーは、フィリップ・オーギュストに取られたノルマンディー・ブルターニュなど、以前領地だった所を返還せよと要求した。しかし交渉は決裂し、ヘンリーは東ノルマンディーに侵攻し、**アザンクールの戦い**で勝利はしたが、勝利は完ぺきでなかったために、ヘンリー5 世は一度帰国後、再度侵攻し驚くべき勢いでノルマンディーからパリに迫り、1402 年にはシャルルからフランスの王位継承権を奪った。 16 世紀、シェークスピアの「**ヘンリー五世**」が大ヒット

④ **オルレアンの攻防からシャルル 7 世の戴冠** → **オルレアンはジャンヌ・ダルク一色！**

**1429 年、ジャンヌ・ダルク**が現れ、王太子の居城の**シノン城**でシャルルを見分けて、シャルルが王である、と訴えて、軍を立ち上げ、イングランド軍の攻撃にさらされていたオルレアンで、神のお告げでこの王の正当性を信じて来たこの乙女を先頭に、オルレアンを解放し**ランス大聖堂**で戴冠を成功させてシャルル 7 世は正式にフランス王に就任した。

図 12 オルレアン






制作：竹本 修文

図 13 **イングランド軍の包囲網**　出典　英仏百年戦争　集英社

図 14　マルトロワ広場の**ジャンヌ・ダルク騎馬像**

図 14　**ロシュ城**　出典　ウキペデイア

1429 年オルレアンを解放したジャンヌ・ダルクが、戦闘中王太子シャルルが住んでいたこの城に駆けつけて、戦勝を報告し王位即位を決意させたという史実がある。城内にはこの謁見の間が残っている。この後シャルルはランスにて戴冠した。百年戦争の最後は、1453 年ボルドー東端のカステイリオンの戦いで、フランスが勝利し、シャルル 7 世は勝利王となった。ボルドーを失ったイギリスはポルトガルでワイン生産を始めた。

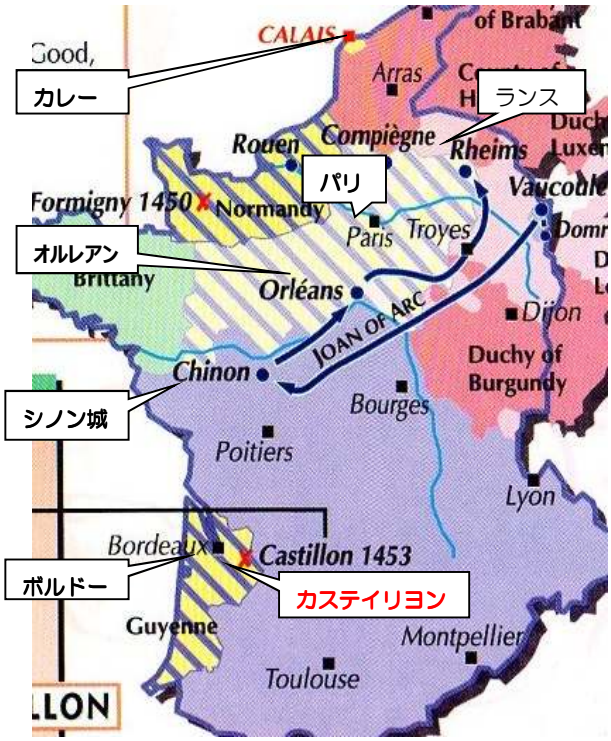



**図 15** 出典　Hundred Years War C:1998 les editions ***Fragile***

4.　**シャルル 5 世の市壁**　（図 16 の緑色の市壁）

✧　1356 年、パリ商工会議所会頭**エテイエンヌ・マルセル** Etienne Martel がフィリップ・オーギュストの市壁（図 16 の茶色）の外側に堀を建設し始めた。シャルル 5 世は、1358 年から堀を大きく深くし、セーヌ川の水を引き込んで要塞化する工事を命令した。新しい要塞化工事は、既に要塞としての機能を失っていたルーヴル要塞を超えて西に拡張した。ルーヴルは規模を変えずに邸宅にし、973 冊の蔵書の図書館を作った。

✧　シャルル 5 世はまた戦争が始まる予見がして、1358 年から始めていた新しい要塞の建設を完成させた。
それは、フィリップ・オーギュストの市壁のセーヌ川右岸部の外側に位置していた、**ルーブル要塞**と**テンプル騎士団**本部を内部に取り込む大きさで；
①　サントノレ、　②　モンマルトル、　③サンドニ、　④サンマルタン、　⑤テンプル、　⑥　バスティーユ、
の六つの門が建設された。

✧　③サンドニ、④サンマルタン共に門 Porte であったが、その後ルイ 14 世の戦勝を祝う凱旋門に建て替えられている。

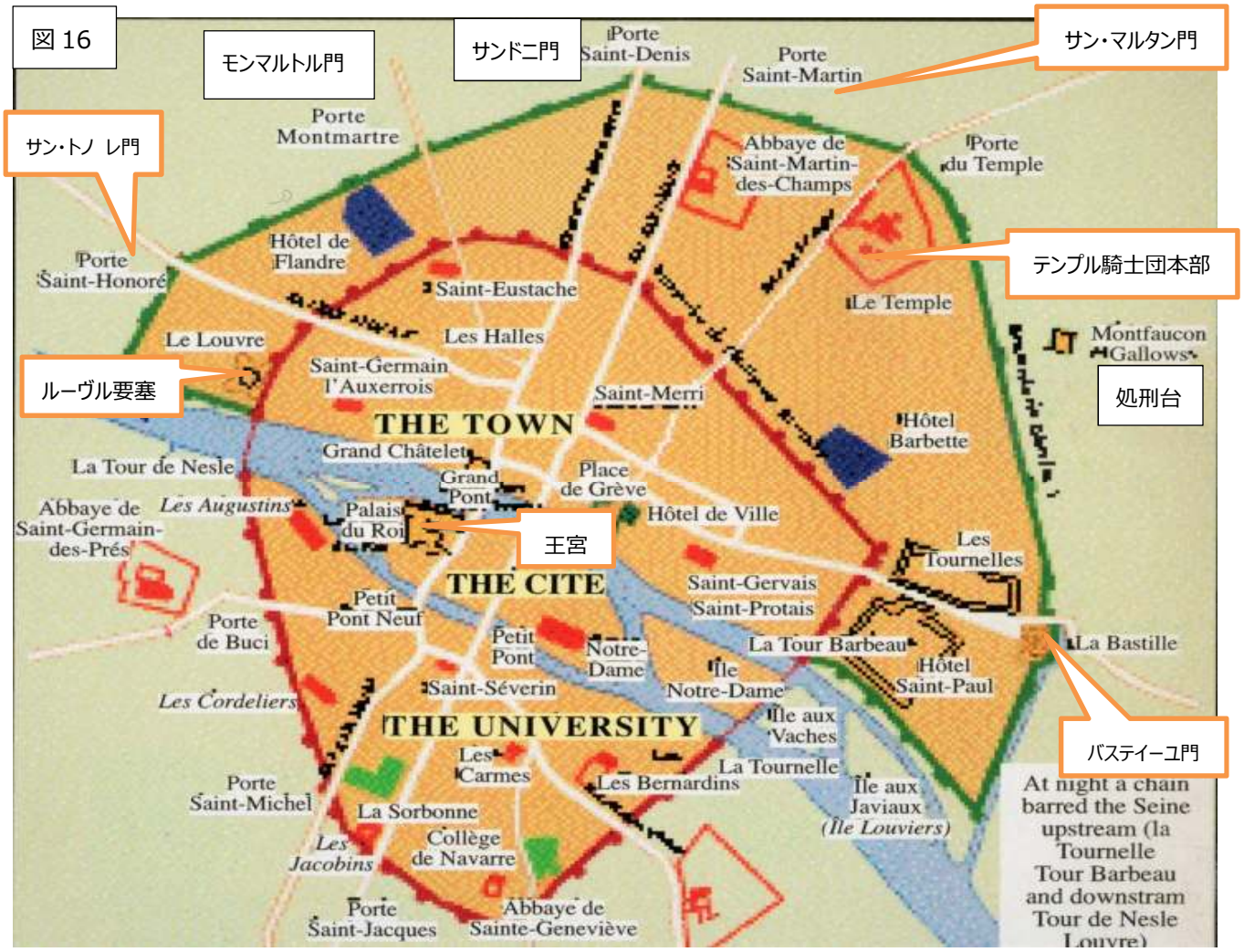
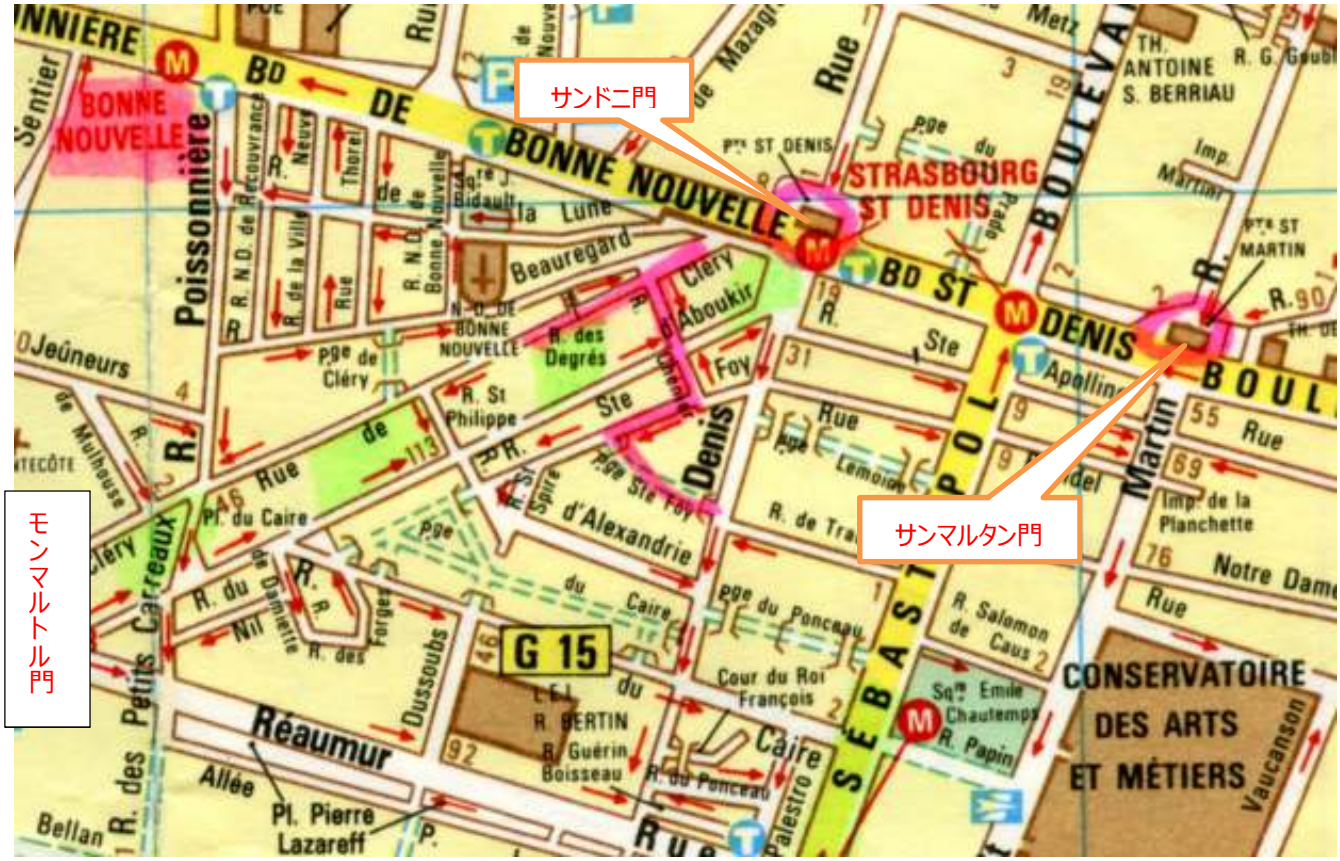



図 17　：現在の地図に図 16 の三つの門（モンマルトル、サンドニ、サンマルタン）を記入した






制作：竹本　修文

図 17 は、　かに面影が　ばれるサン・ドニ門から南西に　かう市壁の部分。城壁の外側に土手があり、その外側に 30　で 8　深さの水たまりがあり、その外側の平地より外側に要塞としての堀があった。Rue St-Denis236　地 から　い Passage Sainte-Foy を　けると Rue Sainte-Foy に出る、この道は　ては Rue Sainte-Rem art と呼ばれていた所であり正に市壁の位置と　われる。19 世紀から 20 世紀の百　　が出来るまでの間に　行った**パッサージュ（アーケード街）**がある。

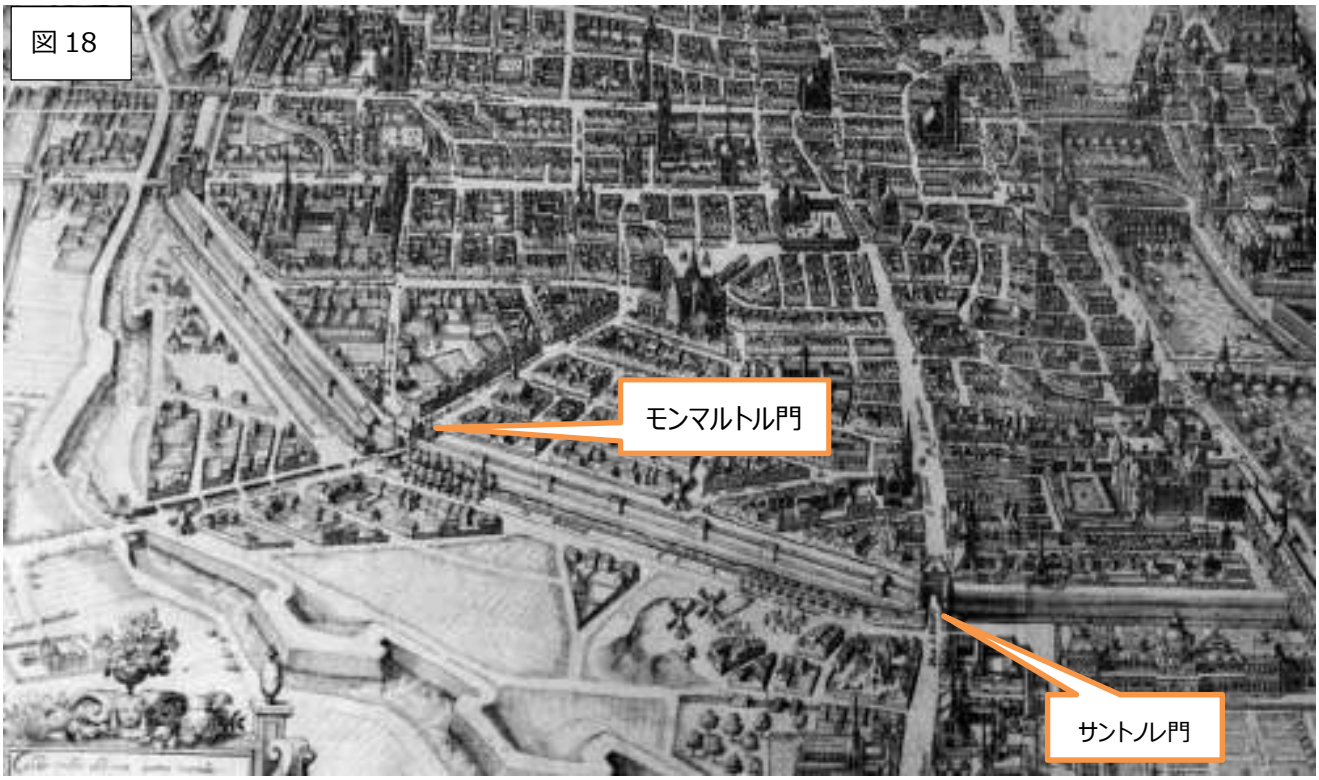



図 17 と　じ部分の　　図、1615 年制作。市壁の外に　　城郭の Bastion が　加されている。出典：Photo Above Paris

Notre-Dame de Bonne-Nouvelle は市壁の内側にあったが、何回か建て替えられている。塔は　のままらしい。教会の外側の　を埋め立てて大通り *Boulevard de Bonne-Nouvelle* が作られ教会の名前が　けられている。この大通りから教会を見ると、　　があり、城壁　だった事がうかがえる。この辺から、St-Denis 凱旋門に　かう道は　道になっているが、この辺は教会の東側にあった教会墓地の　だった。今でも　われるのか、高　な建物はなく、　っ　い　がならび、　間から　化　の高　の　　が堂々と立っている。中世の名残があるのはいいが、ゴミは出しっ　なし、薄　くて　い

市壁の上の通路だった所に建物を継ぎ足している

Notre-Dame de Bonne-Nouvelle

パリの 6 つの壁の内、3 つまで終　です。メールで　信できる　度になったので、シリーズ 4 は終わり。　竹本　修文



制作：竹本　修文